

## 【事業実績】

### 【アーティスト・イン・スクールプログラム】

地域のアート NPO や群馬大学と協働して、小・中学校へアーティストを派遣する「アーティスト・イン・スクール」事業を宮城小学校と実施。

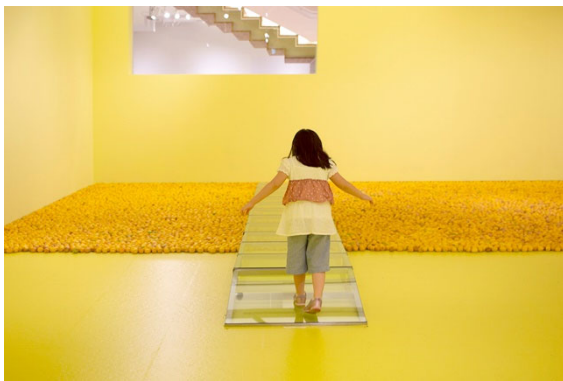


〈中島佑太と県内在住アーティスト×宮城小〉

今年度は中島佑太を中心に、県内在住のアーティストと宮城小児童とのプログラムを実施した。図工用のキット教材を使用し、アーティストらによる制作動画を児童が視聴した後、実際に創作活動を行った。小学校の担当教諭からは「アートと教育の融合は未知の可能性を秘めている。A I S がもっと教育現場に浸透することを心から願っている。」との声があった。

### 【社会包摂によるコミュニティ再生事業】

今年度は、引きこもり経験のある若者支援の NPO 法人、高齢者施設、母子生活支援施設、LGBT 団体と協働して5つのプログラムを実施した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度はオンライン上でシンポジウムの配信や対話型鑑賞を行うなど、新たな試みを実施した。



〈NPO 法人ぐんま若者応援ネット アリスの広場

×滝沢 達史 (アーティスト)〉

アーツ前橋の企画展を休館日に人目を気にせず若者たちに鑑賞してもらう「ゆったりアーツ」やアリスの広場利用者の個別相談に応じる「滝沢相談室」を実施。今年度は若者たちに自身の経験を原稿として執筆してもらい、特設サイトに掲載した。

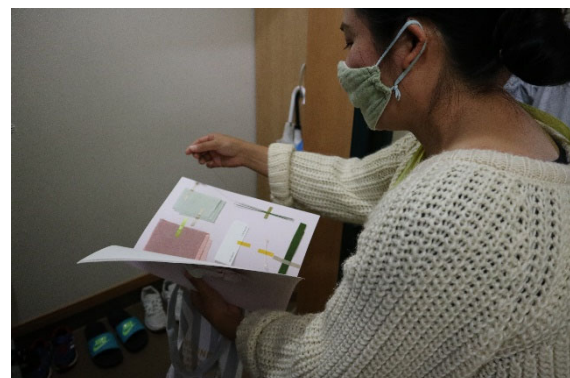
<https://www.artsmaebashi.jp/FoE/>



〈セクシャルマイノリティ支援団体 ハレルワ

×滝沢 達史 (アーティスト)〉

アリスの広場の若者たちとも協力しながら、前橋中心商店街の空きスペースを活用した新たな拠点「まちのほけんしつ」を形成している。生きづらさを抱える人たちが使いやすいよう若者たちと滝沢で施設の改修を行い、作業に参加した若者がアルバイト先で抱える悩みに滝沢が相談に乗るなどした。



〈のぞみの家(社会福祉法人上毛愛隣社)

×廣瀬 智央・後藤 朋美(アーティスト)〉

継続中のイタリア在住の廣瀬と空の写真を交換する「空のプロジェクト」と、後藤による花をつくるワークショップは作成キットを各家庭に送付して実施をした。今年度は元のぞみの家利用者と対談を行い、本事業について「細く長くでいいけど働きかけてほしい。みんなに参加してほしい。」との声があった。



#### 〈南橋団地 × 中島 佑太（アーティスト）〉

中島から南橋団地のワークショップで関わっていた中学生に手紙を通して交流する事業を行った。また、南橋団地は独居の高齢者が多いことから、感染症対策をとりながら、団地で暮らす高齢者に対しインタビューを行い自身のこれまでを話してもらい、その様子を記録した。インタビューを受けて、中学生らと今度の南橋団地でのプログラムについて話し合い、映画製作等を行う方針をたてた。



#### 〈鑑賞ボランティア育成 × 齊藤 佳代〉

作品鑑賞をサポートするボランティアの育成事業を実施した。一般の来館者とのプログラムが困難であったため、講師の齊藤による講義と、オンラインミーティングツールを使った研修を組み合わせ、対話型鑑賞を実践した。参加者からは、「今回の高齢者施設の方たちのように、普段美術館に来ることが難しい人たちと鑑賞を通じておしゃべりをできたのは本当に良い体験でやりがいがあった。」との声があった。



#### 〈特別養護老人ホームえいめい(社会福祉法人清水の会) × 鑑賞ボランティア〉

例年は音や身体表現を用いたワークショップを実施していたが、今年度は鑑賞ボランティアによるオンラインでの対話型鑑賞を実施した。選んだ作品が昔の前橋駅を描いたものであったため、対話型鑑賞と高齢者施設などで行われる想起法などがうまく組み合わせられた内容となった。



#### 〈オンラインシンポジウム まちほけちゃんねる第1回～第4回〉

まちのほけんしつから YouTube 配信によるオンラインシンポジウムを計4回実施した。「アリスの広場」代表・佐藤真人、LGBT の支援団体「ハレルワ」代表・間々田久渚、アーティストの滝沢達史の3名がホストになり、初回はまちのほけんしつを立ち上げた経緯を話し合う配信を行い、2回目は東京大学の坂倉杏介准教授を講師に招き、多様性のある場づくりをテーマとした配信を行った。3回目は両団体をよく知る群馬県共同募金会の星野久子氏をゲストに両団体のこれまで

とこれからについて配信を行った。4回目はアーティストの中島佑太と、群馬大学郡司明子准教授、アーツ前橋の住友文彦館長をゲストに「学校の変なルールを面白いものに」をテーマに話し合いがされた。番組運営にあたって、両団体の若者たちが機材の操作や番組のジングル作成などの役割を果たしながら YouTube 配信を行い、社会との関わりに難しさを感じる若者たちにとっては意義深いものとなった。

[https://www.youtube.com/channel/UC7Gcmvw7uUV\\_n2mWsw7DBw/featured](https://www.youtube.com/channel/UC7Gcmvw7uUV_n2mWsw7DBw/featured)